

第4章 研修の進め方

1 研修の視点

体罰等が起こる余地のない指導を確立するためには、教職員一人一人が、「体罰は、しない・させない」という意識を強くもつことが何よりも大切です。そして、その意識を教職員全体で共有し、学校の共通認識としていくことが必要です。また、「体罰は、必要ない」という指導を行っていくために、教職員としての力量を高めていくことも必要です。

そのためには、学校や教職員、各団体の実態に合わせた研修及び自主研修が非常に重要となります。事例1～11あるいは独自で用意した事例における体罰等の問題点や改善点について、考えたり交流したりして体罰等が起こる余地のない指導を推進していきましょう。

2 研修の手順

(1) 自主研修の手順

- ① 事例を選び、次の各問いに対して自分自身の意見をまとめてみる。
 - (ア) 事例のどのようなような行為が体罰や不適切な行為に当たるのか。
 - (イ) なぜ、体罰や不適切な行為に及んだのか。
 - (ウ) どのような指導をすれば体罰や不適切な行為を防ぐことができたのか。
- ② 奈良県先生応援サイト (<http://www.nps.ed.jp/ouen/>) に紹介されている意見を参考に
する。
- ③ これからの指導について、具体的にまとめる。

(2) 校内又は各団体における研修の手順

- ① 研修を企画するコーディネーターが、各学校又は各団体の実態に合わせ、事例を選ぶ。
※ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応事例や各学校の実態に即した事例を盛り込んで研修することは大切なことです。
- ② 『スタンディング・ミーティング』『グループ単位での話し合い』や『ロールプレイング』等の手法を取り入れ、意見交流を行う。
※ コーディネーターは事前に、奈良県先生応援サイト (<http://www.nps.ed.jp/ouen/>) に紹介されている意見を確認しておき、様々な意見が出やすくなるように配慮する。
- ③ 意見を整理し、有効な指導方法を共有する。
- ④ 共有した指導方法が「実践できているか」を確認し、新たに出てきた課題について話し合う機会を定期的にもつ。

【ロールプレイを用いた研修の工夫】

- アイスブレイクを十分に行い、演じやすい雰囲気をつくる。
- 具体的な場面を想定して、様々な立場で感じたり考えたりすることで、事例を自分のこととして受け止めて主体的に考えることができるようにする。
- ロールプレイを効果的に進めるには、進行役が中心となってグループで取り上げる場面を選び、演者と観客を決め、役をイメージしてから演技を始める。
- 演技後、感じたことや考えたことを話し合い、互いに感じ取ったことを共有する。